

伊豆沼・内沼におけるオオセッカの越冬

高橋雅雄^{1,2,3*}・宮 彰男¹・蛭名純一¹・三戸貞夫¹・麦沢 勉¹・津曲隆信¹

¹ NPO 法人 おおせっからんど 〒039-2241 青森県八戸市大字市川町字桔梗野上 19-137

² 弘前大学 農学生命科学部 〒036-8561 青森県弘前市文京町 3

³ 日本学術振興会

* 責任著者 E-mail hachi77vanellus@yahoo.co.jp

キーワード: 越冬地, オオセッカ, 絶滅危惧鳥類, ヨシ原

2016 年 11 月 11 日受付 2016 年 11 月 12 日受理

要旨 2012 年 12 月 8 日夕方と翌 9 日早朝に伊豆沼・内沼の 4 ヶ所のヨシ原でオオセッカの生息調査を行い, 伊豆沼の北岸で 6 個体, 内沼の南岸で 2 個体を確認した. この結果, 伊豆沼・内沼は宮城県内におけるオオセッカの越冬地のひとつであることが確かめられた.

はじめに

オオセッカ *Locustella pryeri* はスズメ目センニュウ科に属する東アジアの固有種で(日本鳥学会 2012), 国際自然保護連合(IUCN)により準絶滅危惧種(NT)に指定されている世界的な希少種である(BirdLife International 2012). 日本では本州東部 5 地域の湿性草原環境のみで繁殖し(永田 1997, 平野 2010, 2015), 絶滅危惧 I B 類と国内稀少野生動植物種(種の保存法)に指定されている(環境省 2014). 東北地方は本種の主要な生息域で, 北部の 3 地域(青森県西部の岩木川河口, 東部の仏沼, 秋田県北部の大潟草原)で繁殖し(永田 1997, 上田 2003), 岩手県南部以南の太平洋沿岸部で主に越冬する(山階鳥類研究所 1996, 永田 1997, 千葉・作山 2011). しかしながら, 特に非繁殖期の生態や分布については未だ不明な点が多く, 本種の保全のためには情報の蓄積が必要である.

宮城県では, 栗原郡南谷地(現在は栗原市)での繁殖期晩期の捕獲例(熊谷 1931)や宮城郡蒲生(現在は仙台市)での営巣記録(竹谷 1938a, 1938b)が過去にあるが, 近年は渡りの中継地または越冬地であり, 蕪栗沼・北上川河口・鳴瀬川河口などで記録されている(永田 1997). 伊豆沼・内沼では秋冬季にごく少数の確認例はあるが(佐藤賢二氏 私信), 詳細な生息状況は知られていない. 本稿では

2012 年冬季に伊豆沼・内沼で行った生息調査の結果を報告し、当地が宮城県でのオオセッカの越冬地のひとつであることを示す。

方法

伊豆沼・内沼(38°43'N, 141°07'E)は宮城県北部に位置する水面面積計 387ha(伊豆沼:289ha, 内沼:98ha)の自然湖沼である(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 オンライン)。その外縁にはヨシ *Phragmites communis* が優占するヨシ原があり、伊豆沼の南東岸(二工区の南隣)・北岸(伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター付近)・北西岸(獅子ヶ鼻の東隣)・南岸(三工区の東隣)、内沼の北岸・南岸には比較的広いヨシ原が発達している(吉田・西山 2008, 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 2010)。ここに 4 つの調査区(A, 伊豆沼の南東岸; B, 北岸; C, 南岸; D, 内沼の南岸)を設置した(図 1)。調査区のヨシ原はいずれも刈り取りが行われていない非管理の群落で(吉田・西山 2008), その大部分はヨシのみで構成された単層の植生構造を持ち、地面は冠水していた。一部ではスゲ類などの下層植生が見られた。

野外調査は、調査区 A と B は 2012 年 12 月 8 日 16:00–16:30(当地の当日の日の入りは 16:13 だった)に、調査区 C と D は翌 9 日 6:00–7:00(当地の当日の日の出は 6:42 だった)に実施した。両日とも調査時は吹雪いており、地面には 10cm 程度の積雪があった。先行研究(山階鳥類研究所 1996, 千葉・作山 2011, 宮 2012)に倣い、プレイバック法を用いて生息を確認した。調査区を車または徒歩でゆっくりと移動し、おおよそ 50–100m 毎にオオセッカの囀り声(青森県仏沼で録音されたもの)を録音再生機で数回程度再生し、直後のオオセッカの反応の有無を確認した。非繁殖期のオオセッカは、同種の囀

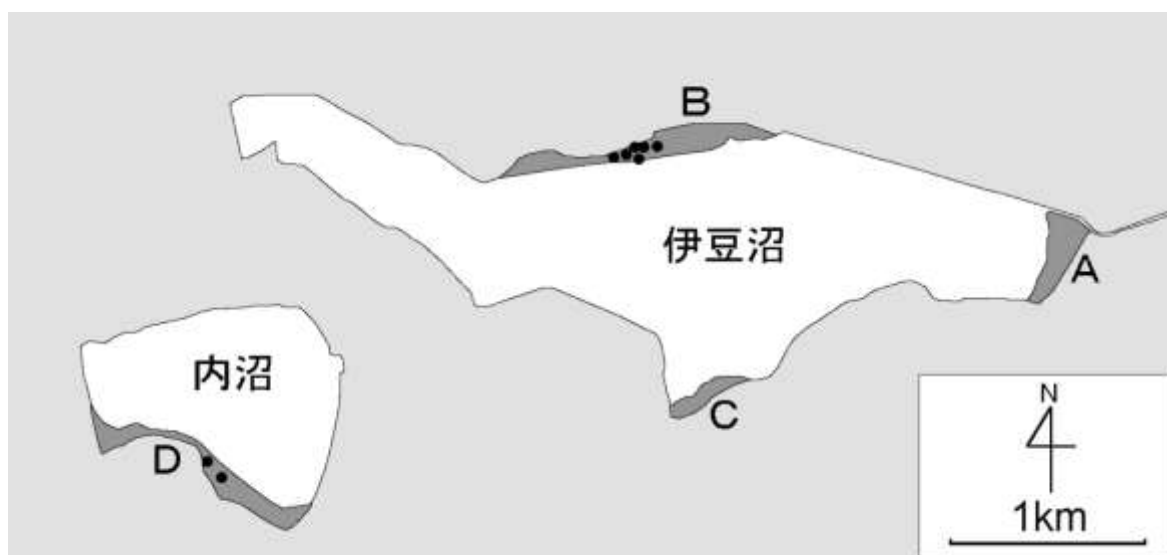


図 1. 伊豆沼・内沼の 4 つの調査区(A–D)と確認したオオセッカ(黒点)。

Fig.1. Location of four study areas (A–D) and Japanese Marsh Warblers (black point) at Lake Izunuma-Uchinuma.

り声に対して「ギチチチ」と聞こえる特徴的な地鳴き声を発して反応する。この反応を確認した場合は地図上に発声地点を記録した。

結果および考察

野外調査により、伊豆沼の北岸(調査区 B)にて 6 個体、内沼の南岸(調査区 D)にて 2 個体のオオセッカの反応を確認した(図 1)。なお、調査地 B では同時にクイナ *Rallus aquaticus* 1 個体も観察した。伊豆沼の南東岸(調査区 A)と南岸(調査区 C)ではオオセッカは確認できなかった。

以上の結果から、伊豆沼・内沼では少なくとも 2 ヶ所で複数個体のオオセッカが越冬していることが明らかとなった。しかしながら本調査の結果は、次の 2 点から過小評価であると考えられるため、より広範囲により多くの個体が生息していた可能性がある。第 1 に、本調査で用いたプレイバック法の有効性(どの程度の確率でオオセッカがプレイバックに反応するか)は未検証であり、その発見率は評価できない(少数個体のみが反応しただけかもしれない)。特に、本調査では確認できなかった伊豆沼の南東岸(調査区 A)と南岸(調査区 C)は過去にオオセッカが捕獲された場所であり(佐藤賢二氏 私信)、本調査の結果から「生息していない」と断言することはできないだろう。第 2 に、未調査の伊豆沼の北西岸と内沼の北岸(いずれも定期的にヨシの刈り取りが行われている)はスゲ類の下層植生が発達しており(吉田・西山 2008)、過去に報告された非繁殖期のオオセッカの生息環境(山階鳥類研究所 1996, Nagata & Yoshida 1997, 千葉・作山 2011)と似ているため(佐藤賢二氏 私信)、これらでもオオセッカが生息していたかもしれない。伊豆沼・内沼でのオオセッカの生息状況を正確に明らかにするためには、さらなる調査が必要であろう。

伊豆沼・内沼はハクチョウ類やガンカモ類などの水鳥の越冬地として著名で、ラムサール条約の登録湿地となっている(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 オンライン)。一方で、湿性草原棲鳥類の生息地として注目されることはほとんどない。しかしながら本研究の結果は、少なくともオオセッカとクイナが当地で越冬していることを示している。伊豆沼・内沼の岸辺のヨシ原は、その湖面や周囲の水田と同様に、重要な鳥類の生息環境としての保全を検討されるべきであろう。

謝辞

佐藤賢二氏には伊豆沼・内沼でのオオセッカの過去の情報を御提供いただいた。鈴木耕平氏には野外調査に御協力いただいた。ここに感謝申し上げる。

引用文献

BirdLife International. 2012. *Locustella pryeri*. The IUCN Red List of Threatened Species

2012. <http://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2012-1.RLTS.T22715480A38218731.en> (on line, viewed 10-11-2016).
- 千葉一彦・作山宗樹. 2011. 岩手県沿岸南部におけるオオセッカ *Locustella pryeri* の越冬状況. *Strix* 27: 89–96.
- 平野敏明. 2010. 渡良瀬遊水地におけるオオセッカの初めての巣卵の記録. *Accipiter* 16: S1–S3.
- 平野敏明. 2015. 渡良瀬遊水地における繁殖期のオオセッカの生息状況の変化と生息環境. *Bird Res.* 11: A1–A9.
- 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団. 2010. 伊豆沼・内沼産植物リスト. 伊豆沼・内沼研究報告 2: 89–96.
- 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団. 伊豆沼・内沼の概要. (オンライン) http://izunuma.org/3_3.html (参照 10-11-2016).
- 環境省. 2014. レッドデータブック 2014-2 鳥類 — 日本の絶滅のおそれのある野生生物 —. ぎょうせい, 東京.
- 熊谷三郎. 1931. 若柳町付近に於ける鳥獣調査. 鳥獣報告集 6(11): 169–173.
- 宮 彰男. 2012. 仏沼におけるオオセッカの冬季の記録. おおせつからんど年報 3: 12–14.
- 永田尚志. 1997. オオセッカの現状と保全への提言. 山階鳥研報 29: 27–42.
- Nagata, H. & Yoshida, H. 1997. Some notes on the wintering ecology of Japanese Marsh Warblers, *Megalurus pryeri*, at two sites around Lake Kasumigaura. *J. Yamashina Inst. Ornithol.* 29: 50–56.
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会, 三田.
- 竹谷彦蔵. 1938a. 蒲生に於ける日本特有オホセッカ. 野鳥 5 (8): 832–840.
- 竹谷彦蔵. 1938b. 蒲生に於ける日本特有オホセッカ. 野鳥 5 (9): 910–917.
- 上田恵介. 2003. 日本にオオセッカは何羽いるのか. *Strix* 21: 1–3.
- 山階鳥類研究所. 1996. 平成 8 年度環境庁委託業務報告書 オオセッカ生息状況調査. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 吉田 馨・西山久美子. 2008. 定期的な刈り取りがヨシ群落の種構成に与える影響. 伊豆沼・内沼研究報告 2: 89–96.

Wintering record of Japanese marsh warbler at Lake Izunuma-Uchinuma

Masao Takahashi^{1,2,3*}, Akio Miya¹, Jun-ichi Ebina¹, Sadao Sannohe¹, Tsutomu
Mugisawa¹ & Takanobu Tsumagari¹

¹ NPO Oosekka-land, 19-137 Kikyouno-kami, Ichikawa-machi, Hachinohe,
Aomori 039-2241, Japan

² Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University, 3 Bunkyo-cho, Hirosaki,
Aomori 036-8561, Japan

³ Japan Society for the Promotion of Science

* Corresponding author E-mail: hachi77vanellus@yahoo.co.jp

Abstract Wintering Japanese marsh warblers *Locustella pryeri* were found using song playback at four reedbeds around Lake Izunuma-Uchinuma on the evening of 8 December 2012 and the early morning of 9 December 2012. We located six warblers on the northern shore of Lake Izunuma and two on the southern shore of Lake Uchinuma. This result suggests that Lake Izunuma-Uchinuma is a wintering site for Japanese marsh warblers in Miyagi Prefecture.

Keywords: endangered bird, Japanese marsh warbler, *Locustella pryeri*, reedbed, wintering site

Received: November 11, 2016/ Accepted: November 12, 2016